

A magazine about Shimane Prefecture, Japan

梦之港

Vol. 43

ものを 大事にする生き方

大切な教えをプレゼントする病院
—子どもたちのために、おもちゃを「治療する」お話
蛇洞の生まれ変わり：新たな命を吹き込み、心を癒す
生きて流れる金継ぎの哲学
生活に句読点を
—読書を通して歴史と知識を伝える力—

惜物

贈り重要教誨の医院 —为孩子们“治疗”玩具的故事
蛇洞の重生：赋予新生、疗愈人心
川流不息 —在流动和变化中传播的金継ぎ哲学
给生活加上句读点 —通过阅读传递历史与知识的力量



贈予重要教誨の医院 —为孩子们“治疗”玩具的故事

朴惠英

“前年圣诞节收到的变身腰带坏掉了。”7岁的小葵（音译）说道。我们都能理解心爱的玩具损坏时的难过心情。而小葵前往的是位于松江市的“玩具医院”。在这里，志愿者工作人员会为损坏的玩具进行修复，让它们再次回到孩子们的手中。

小葵的妈妈感慨道：“自从孩子在玩具医院修好玩具后，他变得更加珍惜自己的东西。不仅培养了他们爱护物品的意识，也有助于培养他们的责任感。”通过“治疗”玩具，孩子们学会了珍惜物品，这正是这家“医院”的魅力之一。



大切な教えをプレゼントする病院

—子どもたちのために、おもちゃを「治療」するお話—

「一昨年、クリスマスプレゼントでもらった変身ベルトが壊れちゃったの」と話すのは、7歳のあおいくん。お気に入りのおもちゃが壊れると、どれだけ悲しいかはよくわかります。そのあおいくんが向かったのは、松江市にある「おもちゃの病院」。ここでは、壊れたおもちゃをボランティアスタッフが手当てし、再び子どもたちの手に戻すことができるのです。

あおいくんのお母さんは、「おもちゃの病院で直してもらってから、子どもたちはおもちゃをもっと大切に使うようになりました。物を大事にする心が育まれ、教育にも良い影響を与えていると思います」と話してくれました。おもちゃの治療を通じて、物を大切にすることが育つ場所。それが、この病院の大きな魅力の一つです。

今回、「おもちゃの病院」を訪れたのはあおいくんだけではなく、兄のさくらくん（10歳）は2回目の訪問で、弟やお母さん、友達と一緒に来ていました。「思い出が詰まったプレゼントだから、早くおもちゃが治ってほしい」と話すさくらくんの気持ちは、きっと家族全員が共有していることでしょう。

「松江おもちゃの病院」は1994年に開院し、今年で32年目を迎えます。代表の吉

パク・ヘヨン

田さんがこの活動を始めたきっかけは、15年前に新聞でおもちゃの病院のドクターを募集する記事を見たことでした。その記事をきっかけに吉田さんは手を挙げ、活動をスタート。子どもの頃から修理が得意だった吉田さんは、今では地域の子どもたちのために、おもちゃの治療に力を注いでいます。

「おもちゃの病院では、治療は無料で行き、預かったおもちゃの95%は修理可能です」と吉田さんは話します。最近では海外製のおもちゃが増えており、電子部品の違いによって修理が難しい場合もあります。おもちゃの治療に携わる活動メンバーの猪狩さんは、「治療できない時は、子どもたちの笑顔が見られないのが本当に残念です」と語ります。壊れたおもちゃに命を吹き込むその姿勢からは、子どもたちへの深い愛情と責任感が強く伝わってきます。

「おもちゃの病院」は、壊れたおもちゃに新たな命を与える場所です。現代は、何でもお金で手に入る時代だからこそ、「物は直せば使える」という価値観を子どもたちに伝えることが、これからの社会を担う子どもたちにとって、非常に大切な学びとなるでしょう。



今天来到“玩具医院”的不仅仅是蔡。他的哥哥——10岁的小樱（音译）已经是第二次来了，这次他带着弟弟、妈妈以及朋友一起过来。“这个玩具是我收到的礼物，它承载了很多美好的回忆，所以我希望能尽快修好。”小樱说道，我想这一定是整个家庭共同的期待吧。

松江“玩具医院”成立于1994年，如今已迎来第32个年头。负责人吉田先生回忆，15年前，他在报纸上看到一则招募“玩具医生”的消息，便毅然投身其中。自幼擅长修理的他，如今致力于为当地孩子“治疗”玩具，让它们重获新生。

“玩具医院的‘治疗’是免费的，我们收到的玩具中有95%都能修好。”吉田先生介绍道。近年来，市面上海外制造的玩具越来越多，由于电子元件不同，修理难度也随之增加。参与“治疗”工作的猪狩先生感叹：“无法修复的时候，看到孩子们失望的表情，真的很心疼。”他们用自己的双手赋予破损玩具新的生命，强烈展现出对社区的深厚情感和责任感。

“玩具医院”不仅是让玩具获得新生的地方，更是一个传递重要价值观的场所。在这个几乎什么都能轻易买到的时代，孩子们能够体会到“东西是可以修复后继续使用的”，这对他们未来承担社会责任至关重要。



【松江“玩具医院” 开放时间】

地址：〒690-0045 松江市乃白町32-2 保健福祉综合センター内

开放时间：10:00～15:00（受理截至14:00）

开放日期：每月第2个星期六

联系方式：080-6311-8843

※其他地点也有开设



【子育て支援センター（あいあい）おもちゃの病院開院日程】

-住所：〒690-0045 松江市乃白町32-2 保健福祉総合センター内

-開院時間：10:00～15:00（受付は14:00まで）

-開催日：毎月第二土曜日

-連絡先：080-6311-8843

※他の場所でも開院しています。

蛇胴の重生： 赋予新生，疗愈人心

Bianca Chan

在石见神乐中登场的大蛇“蛇胴”会逐年老化，最终被废弃。然而，有人选择在“蛇胴”被废弃之前，将其主要材质——石见半纸——进行升级再造，制作成各类小物件。这位匠人便是经营着“Upcycle三余亭”工坊的楫瀬孝先生。

楫瀬先生曾在医院工作，但因罹患抑郁症，于58岁时退休。对于开始这项工作的契机，他说道：“我在蛇胴上看到了自己的影子。这条蛇胴在舞台上被使用了30年，最终被丢弃，就像失去了存在的价值一样。我自己也是如此，埋头工作了30年，回过神时已然身心俱疲。然而，如果能让这即将被焚毁的蛇胴焕然一新，那它对我而言便会成为一种疗愈与救赎的象征。我珍惜蛇胴的过程，也是蛇胴在治愈我。”

工坊名称中的“Upcycle”指的是将废旧材料或被视为无用的物品转化为新的材料或形态，使其重获新生。这一过程不仅让被丢弃之物再次焕发光彩，也赋予了原本看似不再有价值之物新的意义。

工坊所在地——滨田市外之浦町，曾是江户时代（1603—1868）至明治时代（1868—1912）北前船的停靠港。船主们在各个港口采购商品，然后将其运往其他港口出售并从中获利。在当年，北前船不仅运输货物，更承担着评估物品价值、避免浪费、促进资源再利用的功能。例如，有一种将旧衣物或布料撕成细条重新编织、制成新织物的技术，名为“裂织”。这种技术得以诞生，正是因为北前船曾将京都的旧和服运往棉花短缺的东北地区——在那里，旧和服极为抢手，妇女们会将买回来的旧和服拆解后再造，使其焕发新生，创造出新的价值。

成长于这样一个珍惜物品、赋予旧物新生的环境，让楫瀬先生自然而然地萌生出了用蛇胴和纸进行升级再造的想法，以及用这种方式回馈故乡与乡亲的愿望。同时，他也期待着自己的作品未来能成为滨田的特色伴手礼，向来访者传递



蛇胴の生まれ変わり：新たな命を吹き込み、心を癒す

ビアンカ・チャン

石見神楽に登場する大蛇の「蛇胴」が経年劣化し廃棄される前に、その素材の石見半紙を小物などにアップサイクルしている人がいます。「Upcycle三余亭(さんよてい)」という工房を営む楫瀬孝(かじかせたかし)さんです。

楫瀬さんはそれまで病院に勤務していましたが、うつ病になり58歳で退職しました。楫瀬さんがこの仕事を始めるきっかけとなったのは、「私はその

蛇胴に自分自身を重ねてしまう。30年間使われ続け、やがて捨てられ、役目を終えたかのように見える蛇胴。私もまた、30年の間、必死に働き、気づけば疲れ果ててしまった。しかし、この燃却廃棄される寸前の蛇胴を再びよみがえさせる事が出来れば私にとって癒しと救済の象徴となる。蛇胴を大切にすることで、まるで蛇胴が私を癒してくれているかのようだ。」と楫瀬さんは語ります。

工房の名前で使われている「アップサイクル」とは、廃材や不要な物、無駄になったものを新たな素材や形へと生まれ変わらせるプロセスです。これにより、捨てられたものが再び息を吹き返し、かつて無価値に見えたものに新たな命が吹き込まれます。

工房が位置する浜田市外ノ浦(とのうら)町は、江戸時代から明治時代にかけて北前船(きたまえぶね)の寄港地でした。船主たちが寄港地で商品を仕入れ、別の寄港地で売却して利益を得る買積みの回船が往来していました。北前船は単に物を運ぶだけでなく、物の価値を見極め、無駄なく活用し、再利用する仕組みを支えていました。例えば、古着や布を裂いて織り直し、新しい製品へと生まれ変わらせる裂織(さきおり)の技術はその一例です。これは、京都で着古された和服を綿が取れなかった東北へ北前船で運び、婦人たちは争ってその和服を買い求め、それを割いて再生し、新たな価値を生み出す工夫の





这片土地的魅力，并成为此地的骄傲，以此为自己的家乡贡献一份力量。

事实上，真正重要的并不仅仅是物品本身。楢濑先生曾听到一位顾客分享了一个令人印象深刻的故事，“那位顾客与人交换名片时，意外发现对方使用的名片夹也是我制作的。这场巧合成为了他们对话的契机，也让我意识到，自己的作品竟然促成了一段新的缘分，”楢濑先生深有感触地回忆道。

楢濑先生的升级再造作品，不仅仅是赋予材料新的生命，更是在编织人与人之间的故事与联系。这或许，才是珍惜物品的真正意义——当我们珍惜一件物品，它便不再只是一个简单的存在，而是拥有了提醒我们人与人之间情感联系之可贵的能量。



一つでした。
「蛇胴」の和紙を小物などにアップサイクルするという新しい発想と、物を大切にする精神は、この地で楢瀬さんが生まれ育ったからこそ深く根付いているのでしょう。そして、生まれ育った故郷と人々に恩返しをしたいという思いにも至ったのでしょう。楢瀬さんはまた、いつか自分の作品が浜田のお土産として故郷の魅力を訪れる人々に伝え、地域への誇りになることで、故郷に貢献したいと願ってまいります。

実際のところ、大切なのは物そのものだけではありません。楢瀬さんは、あるお客様から非常に印象深い話を聞きました。「その方が名刺を交換した相手も、偶然にも私が作った名刺入れを使っていたというのです。その小さな偶然が会話のきっかけとなり、私の作品が新たな繋がりを生んだことに、とても嬉しく思いました。」と感慨深げに語りました。

楢瀬さんのアップサイクル作品は、単に素材に新たな命を吹き込むだけでなく、人と人とを繋ぐ物語や関係を紡いでいます。これこそが、物を大切にすることの本当の価値なのかもしれません。物を大切にすることで、物は単なる存在以上のものとなり、私たちに人との繋がりの大切さを思い出させてくれるのです。





川流不息——在流动和变化中传播的金继哲学

郭小轩

过去，日本的茶道家将金继的痕迹称作“川流”。如今，这门古老的工艺不断流淌、生出支流，既延续了其本质——惜物，又延伸出了新的意义。

金继，是一种在修补破碎或破损陶器的基础上进行二次创作的日本传统工艺。在茶道盛行之时，人们为了爱惜名贵的茶杯，使其逐步发展。通过这种工艺，旧陶器上原本的裂痕非但不会被掩饰，反而会得到突显，因此有观点认为，金继具体反映了“侘寂”这一日本独特的美学概念——欣赏“不完美、无常和不完整”的美。

不过在今天，“侘寂”更常被对日本文化感兴趣的外国人所提及。而金继和它所体现的哲学也早已走向世界，并经过外国人的一番对“日本文化”的创造性解读和演变，又回流至日本。



西方对于金继的好奇，从Google Trends的数据来看，大约开始于2012年，此后对于金继(kintsugi)关键词的搜索量持续增加，并在2024年10月达到顶峰。在这12年中，有过多个对其搜索量的增加起到推波助澜作用的事件。细数下来，你会发现，在西方语境中的金继，往往与“心理健康”“幸福感”“自我接纳”“多样性”“环保”“商业方针”挂钩，且已成为一种生活哲学或流行文化的代名词。

生きて流れる金継ぎの哲学

かつて、日本の茶人たちは金継ぎの痕跡を「川の流れ」と呼んでいた。今日、この古い技法は絶えず流れ、新たな支流を生み出しながら、その本質である「物を大切にする精神」を受け継ぎつつ、新たな意義を持つようになっている。

金継ぎは、割れたり欠けたりした陶器を修復し、さらに創造的な装飾を施す日本の伝統工芸だ。茶道が盛んだった時代、高価な茶器を大切に使うために発展した技法であり、元の割れ目を隠すのではなく、むしろ際立たせるのが特徴である。そのため、金継ぎは「侘び寂び」という日本独自の美意識——「不完全・無常・不完全さの美」を体現しているとも言われている。

しかし現在、「侘び寂び」という言葉は、日本文化に興味を持つ外国人の方がより口にするようだ。そして、金継ぎとその哲学もまた世界へと広まり、「日本文化」として外国人による独自の解釈を経て、日本へと逆流するようになった。

西洋における金継ぎへの好奇心は、Googleトレンドのデータによると、2012年頃から現れ、その後「kintsugi」という検索ワードの人気は増加し続け、2024年10月にピークを迎えた。この12年間で、検索量の増加に影響を与えた出来事は数多い。これらを振り返ると、西洋における金継ぎは「メン

郭小轩

タルヘルス」「ウェルビーイング」「自己受容」「多様性」「サステナブル」「ビジネス戦略」などと結びつけられ、ライフスタイル哲学の象徴ともなっていることがわかる。

一方、発祥地である日本では、金継ぎの魅力はより具体的で、実用的なものだった。「金粉蒔きは最後の装飾で、そこに至る修理工程が大切です」と話すのは、漆を使った金継ぎの技法を教える漆芸作家・高橋香葉氏。仕上げ



而在发源地日本，金继的魅力则更具体、朴实。“撒金粉只是最后的装饰，此前的修补工序才是关键，”正在兴趣班上教授金继技法的漆器艺术家高桥香叶女士说，在最后的装饰中，不仅可以使金粉，还可以将漆与其他金属粉、矿物粉、颜料组合使用，或者直接利用漆本身的颜色，总之“适合那件陶器是最重要的。”作为日本工艺会的正成员，她的作品在岛根县立美术馆刚结束的第71届“日本传统工艺展”中得以展出。

在高桥女士的兴趣班上，有不少学生带着自己或亲朋的旧陶器来修补，其中有的学习金继已超过10年。“我对物品本身有一种执着，”当我问及学习金继的初衷时，有学生告诉我，金继能够让他们“长久使用”那些经过“精心挑选”的或有“纪念意义”的“坏了也不舍得丢掉”的物品，并让其在日常的使用过程中发挥价值。

说到金继在海外的流行，高桥女士表示：“得到外界的正面评价会成为激励，就像传球一样，当海外的认知进入日本，人们会再次发现原本已经是理所应当的事情的价值。”在高桥女士看来，日本也经历过一段消费主义主导的岁月，但近年来，金继再次受到关注。“现在，在普通的咖啡馆也会看到经过金继的餐具，有越来越多人不再认为客人提供这样的餐具是失礼的，”她说。

今天，被输出至世界的日本文化十分广泛。人们提到日本，

想到的不再只是动漫、二次元，还有美食美酒、便利店、科技、服装、音乐……在海外被了解和喜爱的文化越多，其变化的可能性就越多，由变化所带来的生命力也就越蓬勃。

“日本传统工艺展”自1954年举办至今，像金继这样的传统工艺仍保有源源不断的生命力，正是因为它们通过逐渐融入新的材料、接纳新的诠释等方式，让其生命的广度和深度持续延展。正如“日本传统工艺展”的展览宗旨所写：

“传统是生生不息、不断流转的事物，它虽具有永恒不变的本质，却从未有片刻停滞，这才是其本来的姿态。”



金继中所用的漆

在金继全部工序中使用的漆是采集自漆树的树液。这种树液从一棵漆树上只能采集到200毫升，而一颗漆树成长到能采集优质树液则需要10至15年。就像我们受伤会流血、结痂，树也会在受损的部位分泌树液（即漆）并凝固，来保护自己。因此，采漆工匠需要小心翼翼地划开树皮，一滴一滴地精心采集，仅这个过程就长达数月。



には金粉だけでなく、漆と他の金属粉、鉱物粉、顔料を組み合わせたり、漆そのものの色を生かしたりすることもできるが、「その器に合ったものが一番私は好きかな」と語る。日本工芸会の正会員である彼女の作品は、島根県立美術館で開催された第71回「日本伝統工芸展」にも出品されていた。

高橋氏が講師を務める金継ぎ講座には、多くの生徒が自分や友人・家族の大切な陶器を持ち込む。その中には、10年以上金継ぎを学び続けている生徒もいる。「物に対する執着があるのかな」と、一人の生徒は言う。金継ぎを学ぶことで、「選んで買ったもの」「思い出が詰まったもの」「割れても捨てられないほど気に入ったもの」を長く日常の中で使い続けられるようになり、そこに意味があるのだそうだ。

海外での金継ぎブームについて、高橋氏は「外から評価されることは良い刺激になっていると思います。キャッチボールみたいに、日本人が当たり前だと思っていたことが再認識されます」と話す。日本でも、かつては消費主義が主流だった時期もあったが、近年再び金継ぎに注目が集まっている。「飲食店や普通のカフェでも最近かなり浸透していると実感します。必ずしも欠けて直しているものが失礼なものとは思われなくなってきています」と彼女は言う。

今日、世界に広まる日本文化は非常に多様である。日本と聞いて外国人が思い浮かべるものは、伝統文化やアニメ・漫画だけでなく、食文化、コンビニ、テクノロジー、ファッション、音楽など多岐にわたる。そして、海外で認知され、愛される文化が増えれば増えるほど、変化の可能性も広がり、その変化が生み出す生命力も強まる。金継ぎもまた、その一例であろう。

「日本伝統工芸展」の趣旨にはこう記されていた。

「伝統は、生きて流れているもので、永遠にかわらない本質をもちながら、一瞬もとどまることのないのが本来の姿であります。」



给生活加上句读点 ——通过阅读传递历史与知识的力量

三浦carolina百惠

对我来说，读书是一种能够沉浸其中、触及各种世界、发现不同文化并减轻精神压力的重要娱乐方式。同时，在日常生活中，阅读有时也成为一种精神上的逃避，就像误入了《爱丽丝梦游仙境》般的异世界那样。

在日本岛根县出云市，有一家温馨可爱的二手书店，名叫“句读点”。这家书店位于市内的商业街，于2021年开业，已成为阅读爱好者们的聚集地。这家书店的名字来源十分有趣，在日语中，句读点指的是“、”和“。”这两个标点符号，在中文中对应逗号和句号的作用（在文章中，如果没有这两个标点符号，句子会变得难以阅读，就像一口气读完一大段话，没有停



顿一样。因此，句读点不仅是书写时的重要标记，有时也可以用作比喻，象征“生活中的停顿与思考”。

这家书店由热爱书籍的嶋田先生与栗原女士共同经营，他

生活に句読点を —読書を通じて歴史と知識を伝えるカー—

ミウラ カロリナモモエ

私にとって、本を読むことはその物語に入り込み、あらゆる世界に触れ、異なる文化を発見し、精神的なストレスを軽減してくれる大切な娯楽です。まるで、不思議な国のアリスのような異世界に迷い込む気分になります。

島根県の出雲市には、アットホームで愛らしい古本屋「句読点」があります。市内の商店街に位置するこの本屋は、2021年にオープンし、読書好きが集まる場所となっています。この書店は、より公正な社会を築くために活動している本好きの嶋田さんと栗原さんによって運営されています。二人とも、県外出身でありながら、出雲市の落ち着いた生活にあこがれて、夢に見ていた本屋さんをここで開く事にしたのです。嶋田さんは、句読点のない文章が読みにくく解釈しにくいと同じように、私たちの生活において、本の存在は必ずしも必要ではないかもしれないが、本がないと生活が極めて単調になり、生きづらくなる可能性があると言います。このように、句読点という名の書店は人々の生活の中の句読点となり、物事の意味と新しい考え方を与えることを目指していると語っています。

お店の棚には、希少な絶版本や、時代を感じる物語、様々なジャンルの本が丁寧に整理され、置かれています。誰かにとっては懐かしく感じられ、逆に新鮮な印象を受ける人もいます。

古本以外にも、厳選された新刊本を販売するコーナーもあり、素朴さと現代的な雰囲気が楽しめる興味深い場所です。読書会、ライブ、手芸等のイベントも開催しており、幅広い年齢層のお客さんが訪れます。このような環境は、読者同士の交流を促進し、人々の出会いの場となり、知識の普及に繋がると思います。

私は、「Only Reading Club」という読書イベントが特に好きです。この読書会では、既に読んだ本や棚の奥にしまっている未読の本を持ち寄って、2時間かけてじっくり読むというイベントです。その後、他の参加者とそれぞれの本を紹介し合い、なぜその本を選んだのかという理由や感想を共有します。長時間の読書の後に栗原さんが用意してくださる軽食を食べて、おしゃべりする時間が居心地いいです。

句読点のような古本屋は、廃棄される可能性があった作品に新たな価値を与え、より意識的で持続可能な消費を促進しています。ブラジルでも、様々な古本屋が存在し、古き良き文学作品、忘れてはいけない植民地時代の歴史や、移民の歴史など、「Brazil」というアイデンティティを守る役割をしていると思います。

嶋田さんの見解では、この情報とスピード重視の世界で、私たちは不必要

们致力于通过书籍的力量打造一个更加公平的社会。二人都不是本地人，却都向往出云市宁静的生活，于是决定在这里实现自己开书店梦想。嶋田先生认为，正如没有句读点的文章难以阅读和理解一样，虽然我们的生活中书籍的存在不一定是必要的，但如果没有书，生活就会变得极为单调，甚至让人感到难以度日。因此，他们希望“句读点”这家书店，能够成为人们生活中的句读点，赋予事物意义，并带来新的思考方式。

书店的书架上整齐地摆放着许多珍贵的绝版书、充满时代感的故事，以及各种类型的书籍。对某些人来说，这些书籍可能会勾起怀旧之情，而对另一些人而言，则会带来耳目一新的感觉。

除了二手书之外，店内还设有专门的角落，出售精心挑选的新书，让人在这里既能感受到古朴的氛围，又能感受到现代的气息。书店还会举办读书会、现场音乐会、手工艺等多种活动，吸引了各个年龄段的读者前来参与。这样的环境不仅促进了读书爱好者之间的交流，也成为人们相识的场所，同时推动了知识的传播。

我个人最喜欢的活动是名为“Only Reading Club”的读书会。在这场活动中，大家可以带上自己已经读过的书，或是那些被遗忘在书架深处、还未翻阅的书，在书店里沉浸式地读上两个小时。之后，参加者们会介绍自己带来的书，并分享选择这本书的理由以及阅读感受。读书会结束后，大家还能一起享用栗原女士精心准备的简餐，在轻松的氛围中愉快交谈。

像“句读点”这样的二手书店，赋予了那些原本可能被丢弃的书籍新的价值，同时也促进了更加有意识的、可持续性的消



费方式。在巴西，也有许多二手书店，这些书店不仅保存着经典的文学作品，还记录着不容遗忘的殖民历史与移民史，在守护“巴西 (Brazil)”这一国家认同方面发挥着重要作用。

在嶋田先生看来，在这个信息至上、追求速度的世界里，人们不断地剔除“无用”的东西。然而，仅仅留下“必要之物”的世界并不有趣。书籍承载着知识、文学和历史，是将这些宝贵财富传承下去，并构建一个充满文化和梦想社会的重要媒介。

嶋田先生与栗原女士怀揣着信念经营着“句读点”这家受人喜爱的书店，他们希望通过书店举办的各种活动让人们意识到书籍的重要性，同时也希望大家在交流和讨论中感受到学习的乐趣。大家不妨亲自去光顾这家书店，去感受一下它的魅力怎么样？



なものをどんどん削ぎ落として生きています。しかし、「必要なもの」だけが存在する世界は面白くないのです。本は、知識、文学、歴史を守り次世代へ伝え、文化的で夢のある社会を創造する上で極めて重要なアイテムです。

句読点という愛される書店を運営する嶋田さんと栗原さんは、このような思いを持って、本の大切さだけでなく、交流や議論を通して学ぶ楽しさを分かってもらえるようにと、お店で様々なイベントを開催しています。是非、足を運んでみてはいかがでしょうか。

A magazine about

Shimane Prefecture, Japan <http://www.pref.shimane.lg.jp/bunkakokusai/>

梦之港

编辑：郭小轩、汤聪

Publisher: 岛根县环境生活部文化国际课

关于本杂志，您有任何意见或疑问请与我们联系。

bunka-kokusai@pref.shimane.lg.jp

发行：岛根县环境生活部文化国际课



Bianca Chan



Guo Xiaoxuan



Carolina M Miura



Hyeyeong Park



Tang Cong